

日本周辺海域の海面水温の上昇について

福田 正美(海上自衛隊 大湊地方総監部)

1 はじめに

平成19年5月、気象庁は2007年までの過去100年にわたる海域平均海面水温(年平均)の上昇率を明らかにしました。

それによると、日本海北部、釧路沖及び三陸沖では顕著な上昇はありませんでしたが、その他の日本周辺海域では0.7~1.7℃(℃/100年)の上昇がありました。

また、日本周辺海域では海面水温の上昇に伴い南方系の魚等の北上が各地で確認されてきました。

2 各地の異変について

(1) 山陰沖の「グルクン」

グルクンという魚を私は番組をみるまではわかりませんでした。沖縄の県魚に指定されていて、唐揚げ等にとるとたいへんおいしい魚であり、生息域は沖縄近海であります。しかし、近年の海面水温の上昇に伴い玄界灘や山陰沖で捕獲されたのが確認されました。

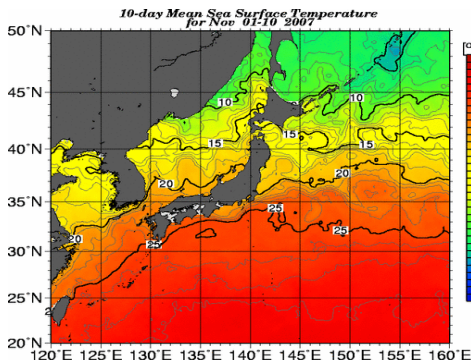


図1 2007年11月上旬
海面水温

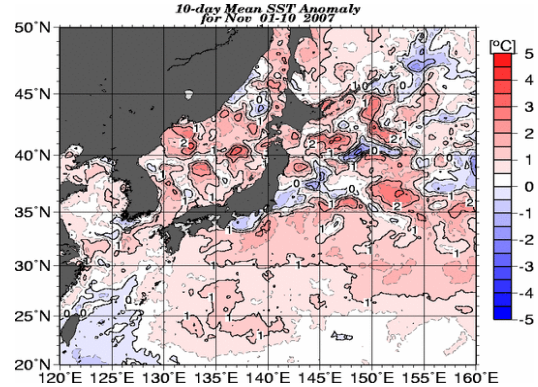


図2 2007年11月上旬
海面水温(平年差)

グルクンの捕獲が多く報告された2007年11月の沖縄近海の海面水温は27℃、玄界灘から山陰沖の海面水温は21~22℃となっており、平年より1~1.5℃高くなっている。

このように、海面水温の上昇に伴いグルクンが北上してきたものと推察される。

(2) 陸奥湾で発見された「タイマイ」

平成19年11月28日、青森県の陸奥湾内横浜沖で発見された「タイマイ(亀)」は、もともと青森県周辺には生息しておらず通常であれば生息域は熱帯や亜熱帯の海域です。

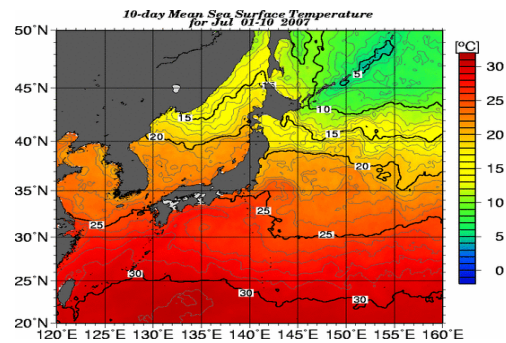


図3 2007年7月下旬
海面水温

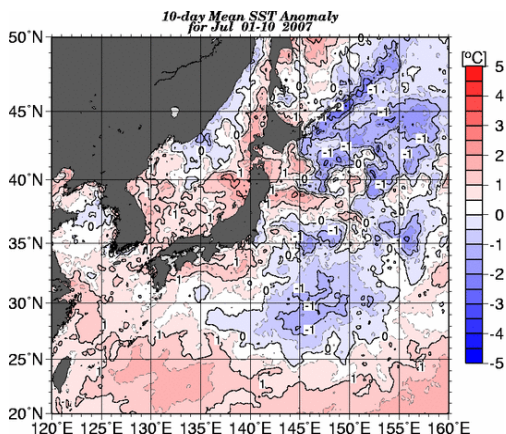


図4 2007年7月下旬
海面水温（平年差）

図3及び図4からその頃の海面水温は、東シナ海では、25°C以上、日本海中部で21~23°C、津軽西口で20°Cとなっており、平年差は日本海では1~1.5°C程度高くなっていた。

「タイマイ」はこの7月頃に日本海を北上し、陸奥湾に迷い込んだものと推察されます。

なお、このタイマイは浅虫水族館で保護され、健康の回復を待って、今年生まれ故郷の沖縄周辺の海に放流されました。

3 日本周辺海域の海面水温の上昇について

気象庁が平成19年5月に発表した「日本周辺海域の海面水温の長期変化傾向について」からの資料をみれば、はじめに述べたとおり北日本周辺海域での上昇は見られませんが、その他の海域では顕著な上昇がみられ、図5のとおり特に日本海中部の上昇が著しくなっています。

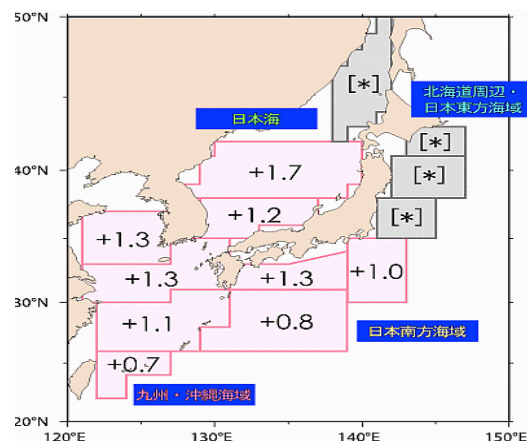


図5 日本近海の海域平均海面水温
（年平均）の長期変化傾向（°C/100年）

4 今後の研究課題

私の勤務する大湊地方総監部の周辺海域は、日本海から対馬暖流が北上して宗谷暖流となる流れと津軽海峡で分流し津軽暖流として太平洋へ流れ出る。

一方、千島近海からは親潮が北海道南東を三陸沖へ流れている。

このように複雑な海流分布となっている海域の研究課題として以下の項目をあげ、今後の海上自衛隊の任務遂行に貢献したい。

- (1) 日本海南部及び日本海中部の冬季になぜ海面水温の上昇率が高くなるのか。
- (2) 海上防衛を主任務とする海上自衛隊の作戦環境に与える影響として「水温の上昇と音速の関係」「海流の強さと音の屈折」

☆ 資料は、気象庁のホームページから引用しました。